

健康統計の基礎 第5回

今回は、1変数の統計量（テキスト 50～63ページ）について学習します。

表計算ソフト「Excel 2013」を使って、データの特徴を視覚的に把握しやすくするための、グラフ表現について演習をします。

テキスト

- 石村貞夫・劉晨・石村友二郎(2013)『Excelでやさしく学ぶ統計解析2013』東京図書.

今回の内容

小テスト

前回説明した、データの尺度やグラフの種類について、理解度を把握するための小テストを実施します。

- 追加資料: 田久浩志(2013)医療者のためのExcel入門 医学書院 pp.84-87.

ミニ講義

テキストの「第4章 1変数の統計量」（50～63ページ）について、解説をします。テキストに書かれていないことも説明しますが、説明した内容はすべて、次回の授業で小テストをして理解度を確認する予定です。

演習

演習では、テキストの次の内容に取り組みます。ただし、[項目ごとに指示](#)がありますので、それにしたがって演習をすすめてください。

- [\(前提知識\) 数学的な基礎知識](#)
- 4.1 平均を求める(51～54ページ)
- 4.2 分散・標準偏差を求める(55～61ページ)
- 4.3 分析ツールの利用法(62～63ページ)

今回の課題

- 課題: [平均・分散・標準偏差などの計算](#)

演習の内容

使用するファイルのダウンロード

今回の演習で使用するファイルを、eラーニングのサイトからダウンロードして、自分のパソコンに保存します。

1. eラーニングの授業のページを開く
2. 「第5回」の「第5回の課題用ファイル(クリックしてダウンロード)」をクリック
3. 「名前を付けて保存」ボタンでファイルを保存した後、ファイルを開く

ファイルを開いたら、Excelのウィンドウ上部の「編集を有効にする」をクリックして、演習をはじめてください。

4.1 平均値を求める (51～54ページ)

テキストの51～54ページまでの操作を行います。次に指示をする箇所については、テキストの説明を読み替えて操作してください。

- 53ページ: 手順4、手順5
 - 平均の計算は、B14セルに入力
- 54ページ: 手順1、手順3
 - 平均の計算は、C14セルに入力

定義式で求めた値 (B14) と関数を利用した値 (C14) が一致しているかを確認してください。

シートの切り替え

ここまでの演習ができたら、使用するシート (ワークシート) を切り替えてください。

1. ウィンドウ左下の「4.2」をクリック
2. 表示されるシートが切り替わる

4.2 分散・標準偏差を求める円グラフの作成 (55～61ページ)

テキストの55～61ページまでの操作を行います。次に指示をする箇所については、テキストの説明を読み替えて操作してください。

- 56ページ: 手順1
 - A12、A13、B1セルへの入力はない
 - A列の幅を「10」、B列の幅を「12」に設定
- 56ページ: 手順2
 - データと平均との差の計算は、平均のセル(B15)との差を計算するようにする
 - B2セルに次の計算式を入力する(\$マークを付けるには、「B15」を入力した後、キーボードの「F4」キーを押す)

```
=A2-$B$15
```

- 58ページ: 手順5
 - 分散 s^2 を求めた後、次のようにして、A14セルに標準偏差 s を求める
1. A14セルをクリックする
 2. 「数式」タブの「関数の挿入」をクリックする
 3. 「関数の挿入」で、関数の分類に「数学 / 三角」を選択し、「SQRT」を選択して「OK」をクリック

4. 「数値」の欄に「B13」を指定して「OK」をクリック

● 58ページ:手順5

○ 分散 s^2 を求めた後、SQRT関数を使って、D8セルに標準偏差 s を求める

● 61ページ:手順1

○ 分散の計算は、D13セルに入力

○ 次のようにして、D14セルに標準偏差 s を求める

1. D14セルをクリックする

2. 「数式」タブの「関数の挿入」をクリックする

3. 「関数の挿入」で、関数の分類に「統計」を選択し、「STDEV.S」を選択して「OK」をクリック

4. 「数値1」の欄に「A2:A11」を指定して「OK」をクリック

分散について、定義式で求めた値（B13）、公式で求めた値（D6）、関数を利用した値（C13）が一致しているかを確認してください。

シートの切り替え

ここまでの演習ができれば、使用するシート（ワークシート）を切り替えてください。

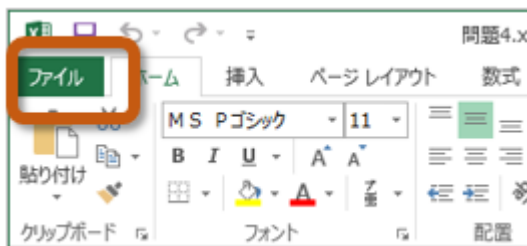
1. ウィンドウ左下の「4.3」をクリック

2. 表示されるシートが切り替わる

4.3 分析ツールの利用法（62～63ページ）

まず、次のように操作して、分析ツールを読み込みます。

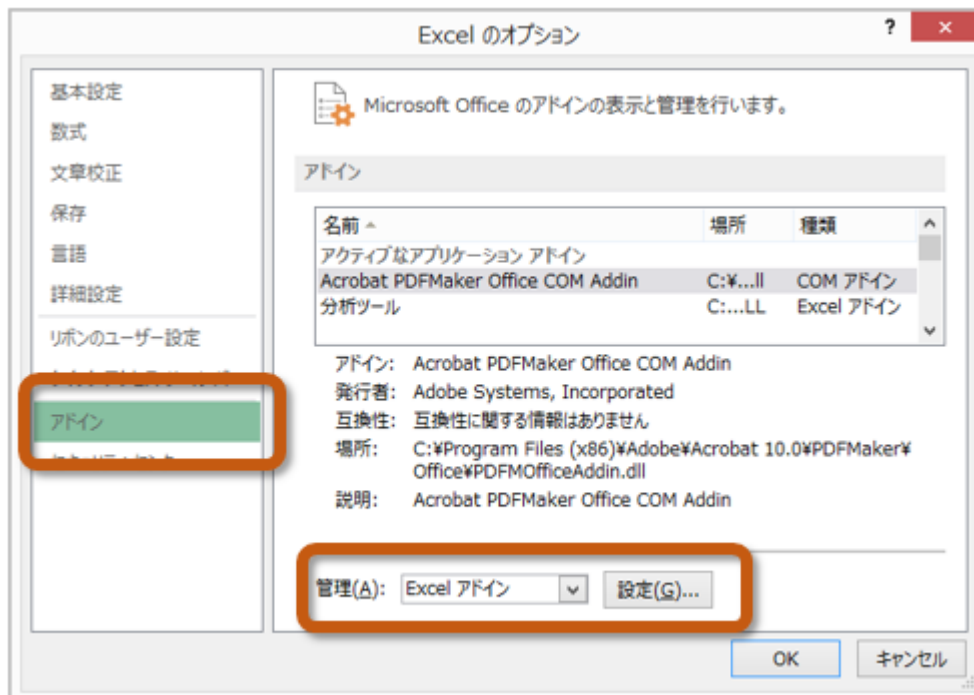
1. 「ファイル」タブをクリック



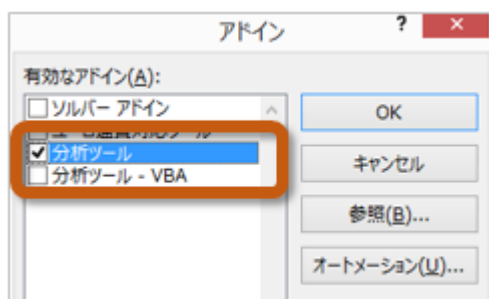
2. 左側のメニューから「オプション」を選択



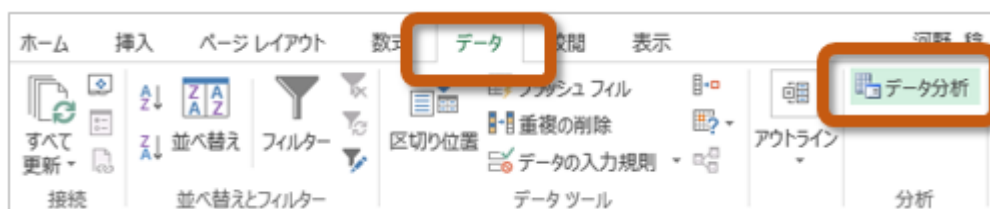
3. 「Excelのオプション」ウィンドウの左側から「アドイン」を選択し、「管理(A)」を「Excelアドイン」に設定した後、「設定」ボタンをクリック



4. 「アドイン」ウィンドウの「分析ツール」をクリックしてチェックをしたら、「OK」ボタンをクリック



5. 分析ツールを使うときは、「データ」タブにある「分析ツール」をクリック



分析ツールが読み込めたら、テキストの62～63ページまでの操作してください。

操作ができれば、さらに次のようにして、新しくできたシートの名前を変更してください。

1. 新しくできたシート(「Sheet～」ではじまる名前)の名前を右クリック
2. メニューから「名前の変更」を選択
3. シートの名前が入力できるので、「分析ツールの結果」と変更して「Enter」キーを押す

第5回の課題：平均・分散・標準偏差などの計算

課題の内容

今回の課題では、テキストの110ページにある「問題4」に取り組んでください。

「課題」というワークシートにデータがありますので、平均、分散、標準偏差などを、次の指示にしたがって求めて、課題を行ってください。

- [4.1] 引裂抵抗の平均値を求める
 - 1.定義式から求める方法(51～53ページを参考)として、H3セルに合計を求めて、その値を利用して、H4セルに平均値を求める
 - 2.関数を利用する方法(54ページを参考)として、I4セルに平均値を求める
- [4.2] 不透明度の分散と標準偏差を求める
 - 1.定義式から求める方法(56～58ページを参考)として、H8セルに合計、H9セルに平均値を求め、その平均値を利用してE2～E21セルに各データの不透明度とその平均との差を計算する
さらにH10セルに平均値との差の2乗を計算したあと、H12セルに分散を求めて、さらにSQRT関数を利用してH13セルに標準偏差を求める
 - 2.公式から求める方法(59～60ページを参考)として、I8セルに合計、I9セルに平均値、I11セルに不透明度の平方和を求める
さらにI12セルに分散を求めて、さらにSQRT関数を利用してI13セルに標準偏差を求める
 - 3.関数を利用する方法(61ページを参考)として、J12セルに分散を求めて、さらにJ13セルに標準偏差を求める

課題の提出方法

ファイルの保存

課題が完成したら、ファイルを上書き保存してください。

まだファイル名を変更していない場合は、次のようにしてください。

1. 「ファイル」タブをクリックして、「名前を付けて保存」を選択
2. 保存する場所に「コンピューター」を選択した後、「ドキュメント」を選択し、「参照」ボタンをクリック
3. ファイル名に「0519」+「学籍番号」+「.xlsx」を設定(半角文字で)
 - 例:学籍番号がH2141000の場合、ファイル名は「0519h2141000.xlsx」

課題の提出

保存できたら、eラーニングのシステムにアップロードして、課題を提出します。保存できたら、eラーニングのシステムにアップロードして、課題を提出します。

1. 『第5回の課題』をクリック
2. 「提出を追加する」ボタンをクリック
3. 「ファイル提出」の中にある「ここにドラッグ&ドロップして...(省略)」という場所に、ファイルをドラック&ドロップ
4. ファイルが登録されたら、「変更を保存する」ボタンをクリックして、下書き状態として保存
 - ファイルを提出し直す場合は、再度「提出を編集する」ボタンをクリックして、新しいファイルを提出する
5. ファイルを修正する必要がなければ、「課題を提出する」ボタンをクリックすれば、提出完了！

課題の期限

期限をすぎると、提出できなくなる場合がありますので、注意してください。

- 提出期限: 平成27年5月26日(火) 14:40まで